



＜来週の資金需給予想とイベント予定＞

(単位：億円)

日付	資金需給予想			主な要因	オペ期日	オペスタート	イベント
	銀行券要因	財政等要因	資金過不足				
10/12 (月)				スポーツの日			
10/13 (火)	トン	+ 14,700	+ 14,700	国庫短期証券発行償還 (3M・6M)	国債補完供給 社債等買入 100 ▲200		日：企業物価指数 (9月) 米：ウォラーFRB理事、講演 財政収支 (9月)
10/14 (水)	トン	▲ 2,000	▲ 2,000		共通担保 (全) ▲ 8,000		日：マネーストック (9月) 米：ボウマンFRB副議長、討論会に参加 CPI (9月) ページブックの公表
10/15 (木)	トン	+ 63,000	+ 63,000	国債発行 (5年) 国債発行償還 (個人) 源泉所得税揚げ 年金定時払い			日：小枝日銀審議委員が熊本県金融経済懇談会に 出席 米：小売売上高 (9月) PPI (9月) 欧：ユーロ圏鉱工業生産 (8月)
10/16 (金)	トン	▲ 2,000	▲ 2,000				日：全国信用組合大会で内田日銀副総裁があいさつ (植田総裁あいさつの代読) 米：ウォーシュFRB議長、IMFのゲオルギエフ専務 理事と対談 欧：ユーロ圏CPI (9月)

＜インターバンク＞

日銀当座預金残高は週初、前営業日対比1兆3,400億円増加の410兆8,600億円から始まった。その後、国債発行等の要因により減少し、9日は408兆2,100億円 (速報) で越えた。
無担保コールON物加重平均金利は週初、1.227%から始まり、その後も概ね横ばいで推移した。
ターム物は1W～3W物1.225%～1.33%のレンジ、1M～3M物1.30%～1.52%のレンジで出合いが見られた。
来週の予定は、国内では15日に小枝日銀審議委員の熊本県金融経済懇談会への出席・記者会見、16日に全国信用組合大会での内田日銀副総裁のあいさつ、海外では14日に米CPI (9月)、ページブックの公表、16日にウォーシュ議長の対談、ユーロ圏CPI (9月) の公表などがある。

〔無担保コールレート〕

	予想レンジ (%)
O/N	1.220 ～ 1.228
1M	1.30 ～ 1.45
2M	1.40 ～ 1.50
3M	1.50 ～ 1.55
6M	1.60 ～ 1.75

＜レボ＞

足許GCは週を通して1.250%～1.255%の狭いレンジでの出合いとなった。買い入れオペや短国の発行の影響もほとんど見られず、水準に変化はなかった。
SC取引は2年484～488回債、5年180～187回債、10年361～372、379～383回債、20年194～197回債、30年87～91回債などに引合いが見られた。

〔オープン市場〕

	予想レンジ (%)
現先 (on/1w)	1.2台前半
CP 3M (a-1+)	1.4～1.5台

＜CP＞

今週の入札発行総額は1兆6,805億円で、週間償還額の1兆5,110億円を上回った。発行残高は、先週末時点の23兆8,155億円から、10月8日時点で24兆5,741億円へと増加した。発行市場では、小売業・ゴム製品・建設業をはじめとする一部の業種で、大型の発行案件が見られた。入札案件の発行レートは、a-1格相当の1か月物で1.2%台後半から1.3%台、3ヶ月物で1.4%台から1.5%台と、幅広い水準での取引が確認された。

来週の償還額は、約1兆3,500億円となっている。発行市場は、祝日のため営業日数が少ないものの、資金調達ニーズは底堅く、相応の発行が見込まれる。発行レートは、次の利上げ時期を見極めようとする動きから、水準を探る展開となるだろう。

＜TDB＞

8日の6M (第1411回債) の入札は、最高落札利回り1.4092% (前回債1.3009%)、平均落札利回り1.4051% (前回債1.2887%) となった。
9日の3M (第1412回債) の入札は、最高落札利回り1.2799% (前回債1.2875%)、平均落札利回り1.2738% (前回債1.2793%) となった。
来週の入札は16日に3Mが予定されている。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。